

2024年3月31日

2023年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 結

ホーム名 樹の下ホーム

代表者・役職名 代表理事 米倉 三仁

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

水光熱費等の基本料の高騰における節約、節水の取り組み

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当団体の運営する自立援助ホーム「樹の下ホーム」は2013年に埼玉県志木市に開所しました。当時から児童相談所管轄内に児童福祉施設がなく、多くの若者が行き場がありませんでした。そのことから代表理事が志木市に設立することを決めました。男性2人、女性4人の6名定員のホームで、保護犬が2匹(1匹はすでに他界しました)と共に生活しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

新型コロナ感染拡大による経済停滞、ウクライナ情勢、円安による輸入価格の高騰、他国の天然ガスの大幅供給による価格高騰などで社会的にもガス代や電気代の高騰が報道されている通り、樹の下ホームでも大幅に費用がかかるようになりました。

これまで自立の生活を想定したエアコンはアプリを使いながら節電を意識して利用するなど過ごしていました。しかしながら、この1年で異常なほど光熱費が高騰3したことから、ある程度自立後の使用感覚等が身につき始めたことを考慮して、使用を中止していたストーブを利用しながら両方を使い分けていく事でホーム内での生活は、ホームの全体として燃料費削減に取り組んでいきたいと考えています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

石油ストーブの故障による買い換えと水道代削減のため、シャワーヘッドを節水仕様のものに交換する。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

石油ストーブは、古いものと005年製の物がありましたが、使用中の灯油の匂いや、原因不明で頻繁に停止したり、暖まるまで時間を要する物もありました。また2台ほど白い煙が出て危険な物もありました。ですが新調してから全く匂いが気にならなくなり、あらゆる不具合も解消されました。省エネ効果でコストパフォーマンスが高いストーブの導入により、給油の間隔が長くなりました。シャワーヘッドは、節水を目的で購入しました。体感としては、既製品より水質が柔らかく、水量が減っていると感じないほど、使い心地が良いです。手元にスイッチがあり、その使いやすさから、入居者たちも早く馴染む仕様になっているのがさらに良い点だと感じました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題としては、水光熱費の高騰や節電節水に対して、ホームで一括して支払っていることから、入居者たちが自分事に捉えることが難しいこともあります。しかし、電気やストーブの消し忘れは、日々の暮らしの中で繰り返し話をしていくことで、徐々に意識の変化も見られるようになりました。古い家電から新しくした時には、リアルにその違いも体感したり、丁寧に使おうとする姿勢もありました。近い将来自立をしたら、自分で水光熱費などそれぞれ支払う立場になり、より実感が沸くとは思いますが。今は自立に向けたトレーニングであることも入居者たちが理解できるよう、その上で子どもたちと一緒にホームの生活を丁寧送ることを心がけたいです。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

